

大学の世界展開力強化事業(平成27年度採択) 上智大学、南山大学、上智大学短期大学部 取組概要

【事業の名称】(選定年度27年度・主たる交流先(中南米))

人の移動と共生における調和と人間の尊厳を追求する課題解決型の教育交流プログラム

【事業の概要】

本事業は、カトリックの精神を共有する上智大学、南山大学、上智大学短期大学部が、中南米諸国との間に築いてきた教育研究両面での実績を基盤に、「人の移動と共生」をテーマとし、自らの学問分野に立脚しながらも、多角的な視野で問題の解決に向けて協働できる人材の養成を目指す。相手国の言語や文化の修得のみならず、インターンシップやサービスラーニング、フィールドトリップ、日系人社会を対象とした教育実践などによる多層的な教育・研究活動を行う。これらのプログラムをとおして、文化背景を異にする人々が共に生き、働く場で生じる様々な問題を①発見する能力、②問題から課題を設定する能力、③その課題を解決する能力を養成する。

【交流プログラムの概要】

中南米へは、上智からは6カ国13大学、南山からは3カ国4大学へ、交換留学生を派遣する。学生は留学の前後に受入派遣学生共通のプログラムに参加し、留学先では各国の語学科目や専門科目を履修するとともに、現地日系企業等でのインターンシップやボランティア活動を体験する。また、短期プログラムでは、上智、南山、上智短大の学生が参加するペルー・スタディツアーを実施し、上智短大が秦野市で学習支援を行っている日系市民の出身地域を訪ねることで、国際理解を一層深める。

受入学生には、国内マルチキャンパスによる教育を提供する。基本モデルコースでは①南山(名古屋)にて日本語集中講座やインターンシップに参加、②上智(東京)で専攻分野に応じた学部・研究科に所属し、コースワークを学修する。その上で、受入・派遣学生共通プログラムとして、中南米と日本の学生が共にスペイン語ないしポルトガル語で学ぶ「日本・ラテンアメリカ比較演習」や、産官学の研究者が多様な視点から問題提起を行うアクティブラーニング科目「人の移動と共生」、企業や学校でのインターンシップやサービスラーニングを提供する。学生の流動性を高めるために、交流プログラムは複数の受入時期と期間を設定する。



【本事業で養成する人材像】

「人の移動と共生」を軸に、日本と中南米諸国、さらには世界に共通する課題(多様性、社会的格差、文化摩擦等)に対する理解を深め、自らの学問分野に立脚しながらも、多角的な視野で問題の解決に向けて協働できる人材

【本事業の特徴】

本事業は以下の4点を特徴としている。

- 1) 国内連携3大学と中南米諸国が「カトリック精神」を共有していること。
- 2) 上智・南山・上智短大の「3大学マルチキャンパス」を舞台に展開されること。
- 3) 様々な形態のインターンシップ、フィールドトリップを通じて「産業界、地域社会との連携」強化を図るものであること。
- 4) 多様な背景を持つ日本人学生と留学生を結びつける「多層的な交流プログラム」であること。

【交流予定人数】

	H27						H28						H29					
	A	Br	Ch	Co	M	Pe	A	Br	Ch	Co	M	Pe	A	Br	Ch	Co	M	Pe
学生の派遣	0	0	0	0	1	14	2	3	1	12	6	18	2	6	1	13	7	19
学生の受入	0	0	2	0	0	2	3	3	1	2	7	3	2	4	1	5	9	4
	H30						H31											
	A	Br	Ch	Co	M	Pe	A	Br	Ch	Co	M	Pe						
学生の派遣	2	6	1	13	10	21	2	6	2	15	11	22						
学生の受入	2	4	1	4	11	4	2	5	1	4	10	4						

A: アルゼンチン Br: ブラジル
Ch: チリ Co: コロンビア
M: メキシコ Pe: ペルー